

学 校 経 営

1 教育目標・学校経営の重点

(1) 学校教育目標

「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成

(2) 経営方針

学校教育目標の具現化をめざし、生徒一人一人が希望に向かい社会に貢献できる人材として成長できるよう、すべての教職員が「すべては子供たちのために」取り組む。また、家庭・地域・教員相互の連携を深め、生徒・教職員そして地域家庭全ての幸せを追求する。

《 目指す生徒像 》～愛着と誇りを育む～

- 正しい判断のもと、主体的に行動できる生徒・・・・・・・・・・【校訓】
- 授業や家庭学習に真剣に取り組む生徒・・・・・・・・・・【知】
- 自他を認め合い、いじめを絶対に許さない生徒・・・・・・・・・・【徳】
- 運動に親しみ、健康で活力に満ちた生徒・・・・・・・・・・【体】
- 社会に貢献できるよう主体的に進路を選択できる生徒・・・・・・【キャリア教育】
- ふるさと銚子への誇りと愛着を持てる生徒・・・・・・・・・・【ふるさと学習】

《 目指す学校像 》～安全・安心で、信頼される学校づくりに努める～

- 学ぶ楽しさが実感できる学校
- 元気な挨拶と明るい歌声が響くきれいな学校
- 安全・安心で信頼される学校
- 地域とともに歩む学校

《 目指す授業像 》～授業改善に努め、学力の向上を図る～

- 授業規律が徹底された授業
- 本時のめあてと学び方が明確な授業
- ICT等の活用など指導や支援の工夫がなされている授業
- 学ぶ楽しさや成就感を味わわせることができる授業

《 目指す教師像 》～学校教育目標の具現化に全力を尽くす～

- 愛情をもって指導し、生徒の良さや可能性を伸ばすことができる教師
- 職責を自覚し、常に研修と実践に励み、生徒とともに成長する教師
- 危機管理意識をもち、事故やトラブル防止に務める教師
- 組織体の一員として、特性を生かしながら協力・協働する教師

(3) 本年度の経営の重点

- ① 「確かな学力」を育成する。
- ② 道德教育を推進し、「豊かな心」を育成する。
- ③ 健康で安全な生活を実践する能力や、積極的に運動に親しむ態度を育成する。
- ④ 社会的・職業的自立に向けた基礎的・基本的な能力を育成する。
- ⑤ 学校と家庭・地域との連携を深め、安全・安心で信頼される学校づくりに努める。
- ⑥ 学校評価を適切に行い、組織マネジメントを機能させ、教育活動の質的向上を図る。
- ⑦ 人事評価制度を適切に運用し、職員の能力開発と人材育成に努める。
- ⑧ 「働き方改革」を推進し、教職員の負担軽減を図るとともに生徒と向き合う時間を確保する。

(4) 経営の重点における具体的方策

- ① 「確かな学力」を育成する。
 - ア 授業規律が確立された、わかりやすい授業を展開する。
 - イ 授業の質の改善に努め、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。
 - ウ 教科部会を計画的に実施し、一人1回以上の授業研究を行う。
 - エ 全学年の数学で習熟度に応じた少人数指導を実施する。
 - オ 専門性の高い外部講師を活用する。
警察署(交通安全、防犯教育) 保育士、栄養士(家庭科)
地域人材(キャリア教育、情報モラル、性教育、薬物乱用防止、ジオパーク等)
 - カ 新学力向上プロジェクトを実施する。

- i 家庭学習の努力目標の設定
 - ii 年6回の基礎学力テスト（漢字、英単語）の実施
※ 範囲提示 → 基礎学力テスト → 目標に到達しない生徒の再テスト → 補充学習
 - iii 放課後学習の実施（テスト期間に合わせて）
 - iv 夏季休業中の補習の実施（5教科の補習：1・2・3学年）
 - v 「個別最適な学び」を推進するICT機器（一人一台タブレット）の効果的な活用
- ② 道德教育を推進し、「豊かな心」を育成する。
- ア 全教育活動の中で実践活動と結び付く道德教育を意識して指導する。
 - イ 多様な体験活動をバランスよく展開するとともに、事前・事後学習を充実させる。
 - ウ 道德教育推進教師を中心とし、全職員で内容を理解し、道德教育を推進する。
 - エ いじめの根絶を図る。
・ 銚子中いじめ防止基本方針に基づく未然防止・早期発見及び解消の取組を行う。また、事後の観察や聞き取りを行い、再発を防止する。
日常の観察、いじめアンケートの実施(毎月)、教育相談の実施(年3回)、相談箱の設置(各学年毎)等
 - オ 小・中・高の連携を図り、ボランティア活動や福祉体験を充実させる。
 - カ 発達段階に応じたキャリア教育を推進する。(職業調べ、職場体験等)
- ③ 健康で安全な生活を実践する能力や、積極的に運動に親しむ態度を育成する。
- ア 保健体育科、技術・家庭科、特別活動の授業を中心に、体力の向上、安全、心身の健康の保持・増進に関する指導を適切に行う。
 - イ 部活動については技能、体力の向上を図りながら、併せて生活態度や学習意欲の向上及び責任感、連帯感を意図的・計画的に育成する。
 - ウ 部活動においては、必要に応じて専門的な知識、技能を有する外部コーチを活用する。
(卓球、サッカー、吹奏楽) また、適正な部活動(部活動数、活動方法等)のあり方を検討する。
- ④ 社会的・職業的自立に向けた基礎的・基本的な能力の育成を図る。
- ア 3年間を見通した系統的なキャリア教育を推進する。
 - i 進路探索【第1学年】 ii 進路計画【第2学年】 iii 進路決定【第3学年】
 - イ キャリア教育に関する体験活動の充実を図る。(職業調べ、職場体験学習等)
 - ウ キャリア・パスポートの効果的な活用を図る。
 - エ 「ふるさと学習」リーフレットの活用や千葉科学大学見学学習、銚子市歌の校内放送、運動会での大漁節の演舞などを通してふるさと銚子への誇りと愛着を育む。
- ⑤ 学校と家庭・地域との連携を深め、安全・安心で信頼される学校づくりに努める。
- ア 地域人材、地域の教育力を活用し、特色ある教育課程やよりよい教育環境づくりを進める。
 - イ 学校評議員、PTA代表、地域団体との連携を深め、同じ目標やビジョンを共有し、地域とともにある学校づくりに努める。
 - ウ 防災訓練(地震対応、津波対応、地域を巻き込んだ高台避難、ワンポイント避難訓練)と防犯訓練(銚子警察署と連携した不審者対応)を実施する。
 - エ 共生社会の形成に向けた特別支援教育を推進する。
 - オ 不登校生徒等の状況に応じた組織的な支援の確立を推進する。
- ⑥ 学校評価を適切に行い、組織マネジメントを機能させ、教育活動の質的向上を図る。
- ア 自己評価、学校関係者評価の結果を学校改善に結びつけるとともに、保護者に公表する。
 - イ 保護者会、各種たより(学校だより、学年だより等)、ホームページ、情報メール等により、学校の運営状況を広く公開する。
 - ウ 各学年だより、学校運営に対する保護者の意見を掲載し、連携を深める。
- ⑦ 人事評価制度を適切に運用し、職員の能力開発と人材育成に努める。
- ア 目標申告、職務能力発揮シートを効果的に活用し、面談をとおして人材育成に努める。
 - イ 日常の授業観察や面談等を丁寧に行い、職員の能力開発に努める。
- ⑧ 「働き方改革」を推進し、教職員の負担軽減を図るとともに生徒と向き合う時間を確保する。
- ア 校務を効率化したり、教育課程を工夫したりすることで業務改善を推進する。
 - イ 部活動の在り方について、活動方針に基づいて精査し、質の高い練習を行うことで練習時間と勤務時間を縮減する。また、毎週木曜日と土曜日又は日曜日のどちらかは休養日とする。